

## 食品製造副産物の飼料利用と和牛振興の成果を学会で発表

9月14日、15日に京都大学で開催された関西畜産学会で、「京都府南丹地域で産出される食品製造副産物の評価と飼料利用技術の開発」と題して、食品製造副産物を原料にした発酵混合飼料を乳牛に与えても牛乳の量や成分に差はなく、飼料利用が可能であることを報告しました。

また、9月15日、16日に同場所で開催された肉用牛研究会では、「和牛繁殖雌牛の生産性向上に向けた京都府の取組」と題して、当センターが取り組んでいる受精卵移植による和牛増頭や和牛改良情報センターの成果を報告しました。



発表する演者



ジャガイモの皮や規格外麺類などを混合し  
乳酸発酵させたものを給与

畜産センター

## 乳牛とのふれあいを楽しむ

- 畜産ふれあい広場に多数の府民 -

9月11日、隣接する農業大学の「農大まつり」に合わせ、乳搾り体験などを通じて畜産への理解を深めてもらう「畜産ふれあい広場」を開催しました。

この行事は、地域の活性化などを目的とした「中丹元気事業」の一環として取り組んだもので、ラップサイレージへのお絵かきや農作業機械の展示説明も行い、乳牛とのふれあいを楽しむ府民でにぎわいました。



優しい子供に子牛もおとなしく



気分は運転手

## サポートカウバンクから耕作放棄地へ

当センターは、和牛繁殖農家の放牧未経験牛を放牧に馴らすために預かるサポートカウバンクを運営して、地域サポートカウ事業に協力しています。

9月8日、1か月間預かっていた牛2頭を京丹波町の耕作放棄地に放牧しました。牛は、1haの広々とした耕作放棄地を悠々と歩き回り草を食べています。

畜産農家は餌代の節約や管理の省力化ができ、受け入れ地域では獣害の減少や地域の活性化などで喜ばれています。



電気牧柵を張った耕作放棄地に  
牛を移動する地域の人



沢山の草に囲まれたサポートカウ

## 酪農家の経営を向上させる出前研修会

当センターでは、酪農家を対象に搾乳衛生対策や牛群検定成績による飼養管理の改善などについて指導を行う出前研修会を家畜保健衛生所とともに実施しています。今月は、南丹市と京丹後市の酪農家で開催しました。出前研修会は、酪農家にとって、新しい情報や正しい知識が習得でき、管理技術を再点検し、酪農経営を向上させる良い機会となっています。



現場作業を点検



活発に意見を交換

## 肥育牛の生産性向上対策指導

呼吸器系の疾病発生率が高い肥育農家から、牛の生産性向上に向けた牛舎環境調査の依頼がありました。当センターは、アンモニア濃度測定を行うなど牛舎内の換気状況を確認したところ、今夏から導入した大型送風機が功を奏し、牛舎内の環境は良好に保たれていることがわかりました。今後、送風機を使わなくなり換気状況が悪くなる冬期に再度調査を行い、検討会を開催します。



ガス検知管で牛舎内のアンモニア濃度を測定

## 牛の受精卵移植進捗状況(平成22年度上半期)

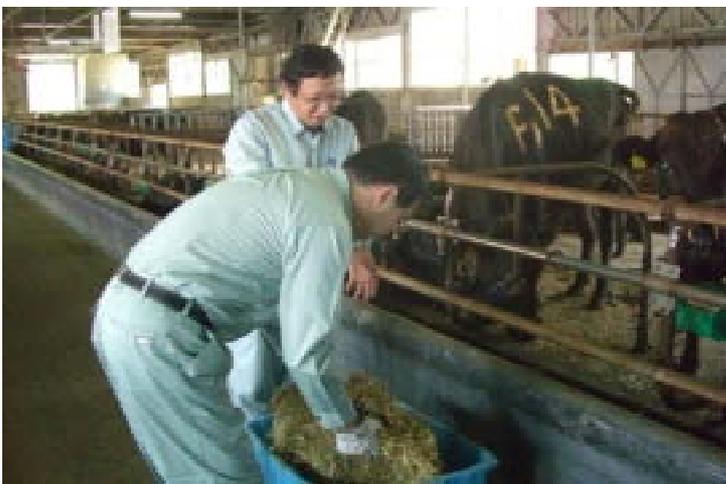
今年度上半期に、採取した牛の正常受精卵は当センターの36頭から277個、畜産農家の6戸8頭から70個となりました。また、農家では175頭(前年度比116%)に移植され、すでに37頭の受胎が確認されています。



受精卵を移植をする人工授精師

## 山田知事が「地域でがんばる畜産農家」と熱く語り合う

山田知事が京都府各地に出かけ、多くの人と出会い、たくさんの方とお話をする「月イチ きょうと府 げんばの絆」の収録のため、9月8日、初めて来場されました。知事は、牛のえさやりや除ふんなど牛舎での作業を体験した後、丹後地域の畜産農家3名と「畜産の魅力や未来」や「畜産を活かした丹後地域の活性化」などについて、熱心に意見交換をされました。



山田知事のエサやり体験



畜産農家との意見交換

畜産センター  
碓高原牧場

## 高校生が畜産を体験

9月28日、峰山高等学校弥栄分校農園芸科の生徒20名が碓高原牧場に来場し、受精卵移植などの先端技術や畜産の講義を受けた後、牛の餌やりや除ふん、ブラッシングなどの飼養管理作業に汗を流しました。

全員が、牛に触れるのは初めてでしたが、今回の体験をきっかけに牛や畜産に興味を持ち、勉学に励むことを期待します。



除ふん作業



牛のブラッシング作業

## 山羊とめん羊を農家へ譲渡

今春誕生した子山羊7頭と子めん羊6頭を譲渡しました。めん山羊は、農地の雑草防除や地域住民との交流の仲介役として、それぞれの地域で活躍が期待されています。飼い主の方から、「栗畑の小屋でかわいがって飼っており、老夫婦の生きがいになっています。」とのお手紙をいただきました。



譲渡した山羊とめん羊